「人権」について考えよう　（Ｎｏ．26）　3／9（木）

気づこう　動こう　守ろう 人権

（　　）年（　　）番　氏名（　　）

毎週木曜日は「人権の日」です。自分の言動を振り返ったり、さまざまな人権問題について考えたりすることで、自分を磨いていく日にしましょう。

「旅立ちの日に」

白い光の中に
山なみは萌えて
遥かな空の果てまでも
君は飛び立つ
限りなく青い空に
心ふるわせ
自由を駆ける鳥よ
ふり返ることもせず
勇気を翼にこめて
希望の風にのり
このひろい大空に
夢をたくして

懐かしい友の声
ふとよみがえる
意味もないいさかいに
泣いたあのとき
心かよったうれしさに
抱き合った日よ
みんなすぎたけれど
思い出強く抱いて
勇気を翼にこめて
希望の風に乗り
この広い大空に
夢をたくして

いま　別れのとき
飛び立とう　未来信じて
弾む若い力信じて
このひろい
このひろい　大空に

1988 年、埼玉県秩父市立影森（ちちぶしりつかげもり）中学校に小嶋校長先生と音楽の坂本先生が赴任した。当時は、歌うことに対して積極的とはいえない状況で、落ち着かない学校の雰囲気があった。歌が歌えないということは心が（　　）だと考える小嶋校長先生は、「歌声の響く学校」というスローガンを掲げた。合唱の機会を増やし、最初こそ生徒は抵抗したが、音楽の坂本先生と共に粘り強く努力を続けた。運動部を引退した3年生の男子たちも合唱練習を始め、「本気で歌うってかっこいい」、と他の生徒たちが思うようになった。その結果歌う楽しさによって学校は明るくなった。3年が過ぎた1991 年2 月下旬、坂本先生は、「卒業する生徒たちのために、何か記念になる、世界にひとつしかないものを残したい」と小嶋校長先生に作詞をお願いしたが小嶋校長先生は断った。しかし、次の日の朝には坂本先生の机の上に詩がおかれていた。坂本先生は、その詩を抱きかかえるようにして音楽室へ行き、15分後にメロディーができあがったという。できあがった曲を教職員は内緒で練習し、それはたった一度きり、「3 年生を送る会」でサプライズ的にステージに上がり、卒業生に向けて歌ったのだ。

今では、卒業式の定番として全国の学校で歌われている「旅立ちの日に」。生徒に寄せる先生の思い、先輩から後輩へと受け継がれる思い―。「旅立ちの日に」には、そんな思いがやどっているのかもしれない。

いよいよ明日は卒業式です。あなたは、どのような思いを込めて「旅立ちの日に」を歌いますか。また、（　　）にはどのような言葉があてはまると思いますか。文章を読んで、感じたことを書きましょう。